

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	電磁気学第一		
英文授業科目名	Electromagnetism I		
開講年度	2004年度	開講年次	2年次
開講学期	3学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門基礎科目-専門共通科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 電子工学科		
担当教官名	上野 芳康		
居室	西2-310		

公開E-Mail	授業関連Webページ
ueno@ee.uec.ac.jp	http://www.edu.cc.uec.ac.jp/~ueno/classes-tmp.html

【主題および達成目標】
<p>電磁気学が相手とする電場・磁場・電磁波は全て遠隔作用であり、比較的即物的な電子回路など違ってやや抽象的なモノである。しかし、モーター・発電機・ブラウン管・各種の電波・レーザー光など身近にある多彩な技術分野及び専門選択科目の基盤をなす重要科目である。さらに、量子力学・相対性理論という20世紀初頭の科学革命を生み出した学問である。電磁気学第一と電磁気学第二の1年間で、電磁気学全般（静電場から電磁波まで）を理解する。</p> <p>「文系のための電磁気学」ではない。3次元ベクトル解析を使った定義と定量的導出を充分身に付け、電磁気学を具体的に理解する。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
微分積分学、線形代数学、工学基礎演習

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
波動と光、解析学

【教科書等】
教科書： 渡辺・青柳著、工科の物理3 電磁気学、培風館 参考書： 中山著、電磁気学、裳華房

【授業内容とその進め方】
<p>授業内容は、次の4項目である。</p> <p>1. 電荷と静電場（4回程度）</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

- 2. 電位と導体 (4 回程度)
- 3. 誘電体 (4 回程度)
- 4. 定常電流 (2 回程度)

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法

上記 4 項目それぞれの基本的理解度を、出席参加点・中間試験・期末試験により評価します。数式・数値を導出し、かつ、簡潔な文章で説明できれば、「理解している」とみなします。

出席と授業への参加度：10%

中間試験：45%

期末試験：45%

(b) 評価基準

以下の到達レベルをもって合格の最低基準とする。

- (1) クーロンの法則、静電場、ガウスの法則の基本概念を理解しており、クーロン力や静電場に関する具体的かつ定量的な問題を計算し、かつ、要点を説明できること。
- (2) 電位や静電ポテンシャル分布の概念と性質について理解しており、それらについての定量的な計算ができること。
- (3) 静電場中の導体や誘電体における静電場の性質について概ね理解しており、それらについての定量的な計算ができること。
- (4) 定常電流の性質、オームの法則、ジュールの法則を理解しており、定量的な計算ができること。

【オフィスアワー：授業相談】

金曜日 6 限。

(訪ねても不在だった場合はその旨メールください。)

【学生へのメッセージ】

電子工学科の全ての専門分野の基礎となる、最重要かつ最難関科目の1つです。予習復習と演習を含めて、しっかり取り組んでください。

講義では身近な電磁現象に結び付けた話題を織り交ぜます。毎週1,2名程度の質問を歓迎します。真剣かつリラックスして授業に参加し、奥深い自然と技術の成り立ちを吸収してください。

【その他】